

# 小学校外国語活動における自律的な教員を養成するためのカリキュラム開発とその実践

研究代表者：佐藤 佳子（敬愛大学国際学部専任講師）

共同研究者：執行 智子（敬愛大学国際学部非常勤講師）

カレイラ 松崎 順子（東京経済大学現代法学部准教授）

## 1 共同研究の目的

日本の公立小学校では、2011年度より、5・6年生の授業に「外国語活動」が導入された。現在教科ではなく領域扱いである。小学校の「外国語活動」が目指すところは、中学校で行われている英語の授業の前倒しではなく、文部科学省が示すように、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」（文科省 2008, p. 7）ことである。英語の4技能の習得が目的ではなく、「体験的に」「慣れ親しむ」ことを目指している。各学校では、文科省の指導目標に基づき、児童の実態に合った到達目標を設定し、学級担任を中心に授業が行われている。しかし、多くの学校では文科省から配布されている共通教材 *Hi, friends!* に沿って授業を行ったり、また、ALT（外国人指導助手）に一任して授業を実施したりするケースが多い。*Hi, friends!* においてはこれを使用する小学校の児童の実態に合わせて、バリエーションを加えて授業ができるように作られている。このような実態では、2020年の教科化に向けて、外国語活動を進めていくことが難しい。現在、大学における小学校教員課程に求められているのは、児童の実態に合わせてクリエイティブな授業を作ることができる教員を養成することである。学級担任は、児童がどういう力をつけたいのかを見極め、文科省が示す到達目標を具体化しながら、各学校に合った外国語活動を実践していく必要がある。2020年の教科化に向けて、大学の教員養成課程では、小学校教員の外国語活動の指導力向上につながるよう講座を充実させることが求められている。

敬愛大学国際学部こども学科では、2011年4月より小学校外国語活動に対応する科目として「小学校英語Ⅰ」「小学校英語Ⅱ」「小学校英語指導法Ⅰ」「小学校英語指導法Ⅱ」の4つの講座を開講している。これは他大学の実態と比べて開講科目が大変豊富であるといえる。本学ではこれらの科目を効果的につなげ、受講学生が将来「外国語活動」を自律的に自校に合わせて作成し、また、授業を中心となって執り行えるような能力を養成しなければならない。よって、本研究では、「小学校英語Ⅰ」、「小学校英語Ⅱ」、「小学校英語指導法Ⅰ」、「小学校英語指導法Ⅱ」の4種類の講座のあり方とつながり方を検討し、学生に役立

つシラバスの作成をすることを目的とする。

## 2 共同研究の概要

本研究は本学における小学校外国語活動に対応する4講座「小学校英語Ⅰ」「小学校英語Ⅱ」「小学校英語指導法Ⅰ」「小学校英語指導法Ⅱ」の授業実践を通して、シラバスの検討および改編を行い、2020年の教科化に向けてカリキュラムの充実を図ることを目的とする。本研究では、小学校教員を目指す学生のニーズに応えるため、授業シラバスの改編に向けて既存のシラバスを検討し、授業実践から学生が外国語活動を指導するために必要とする資質と能力について考察する。2014年度は、各講座の受講学生を対象としたアンケート調査（記述式）を行い、現在調査結果の分析を進めている。2015年度以降は、外国語活動の指導向上に教師に求められている資質や能力と教員養成のカリキュラムが合うようにシラバスを改編し、シラバスを実践し効果をはかり、カリキュラムの工夫を考えていきたい。

多くの学生は特に英語運用能力に不安をかかえながら授業に参加している。しかし、教員としての立場を意識して取り組んだグループ活動、発表、教材作成、模擬授業を1年次から経験していくことが、外国語活動を行うための大きな自信につながるようになった。学生が主体的に授業に参加できる場面を多く取り入れることにより学生にも変容がみられた。体験型授業が効果的であったといえる。

以下、2014年度に実施した「小学校英語Ⅰ」、「小学校英語Ⅱ」、「小学校英語指導法Ⅰ」、「小学校英語指導法Ⅱ」のシラバスである。すべて国際学部こども学科の必修科目である。履修学年は原則「小学校英語Ⅰ」1年次、「小学校英語Ⅱ」2年次、「小学校英語指導法Ⅰ」3年次および「小学校英語指導法Ⅱ」4年次である。各講座を2クラスずつ開講している。2014年度の受講学生は、「小学校英語Ⅰ」73名、「小学校英語Ⅱ」69名、「小学校英語指導法Ⅰ」57名、「小学校英語指導法Ⅱ」116名である。

### (1) 「小学校英語Ⅰ」

#### 資料① 2014年度 小学校英語Ⅰ シラバス

##### 【授業のねらいと到達目標（150文字以内）】

子どもの発達、特に言語発達を理解し、小学校外国語活動の基本的な知識や理論、指導方法を学び、小学校外国語教育についての在り方を考える。様々なアクティビティを体験し、小学校外国語活動を担当する教師として適切な指導技能を理解するとともに、学生自身の英語運用能力の向上を目指す。

##### 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とグループワーク形式で実施する。

##### 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

##### 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。

##### 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）、小学校英語について
第2回	小学校外国語活動について	概要（導入の背景、基本的な知識、めざすもの、MEXT指導要領、評価）
第3回	第二言語習得理論	母語の習得、外国語（第二言語）の習得
第4回	外国語指導方法およびClassroom English①	授業で使える英語表現
第5回	外国語指導方法およびClassroom English②	TPR, Communicative Language Teaching

第6回	Activities①	songs, chants
第7回	Activities②	games
第8回	Activities③	picture books
第9回	Activityの作成①	chants
第10回	Activityの作成②	games
第11回	Activityのプレゼンテーション	Activityの評価
第12回	Hi, friends! 考察	Hi, friends! にあるactivityの考察
第13回	授業計画について	レッスンプラン（通年の構成、単元シラバス）
第14回	教材について	ICTの活用、教材開発の仕方
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## (2) 「小学校英語Ⅱ」

### 資料② 2014年度 小学校英語Ⅱシラバス

#### 【授業のねらいと到達目標（150字以内）】

この授業では、小学校外国語活動を担当する教師として適切な技能を、実践を通して、理解し深めていくことをねらいとする。今学期は、これまで学んできた一つひとつのActivityをレッスンプランにつなげていく作業を中心にグループで取り組む。Classroom Englishなどの英語運用能力の向上を目指す。

#### 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とグループワーク形式で実施する。

#### 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

#### 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の資料文献を読む。自主的なボランティア活動。

#### 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	第二言語習得理論	母語の習得、第二言語の習得
第4回	外国語指導方法およびClassroom English①	授業で使える英語表現、phonics
第5回	外国語指導方およびClassroom English②	TPR, Communicative Language Teaching、phonics
第6回	Activities①	songs, chants
第7回	Activities②	games
第8回	Activities③	picture books
第9回	英語学習理論	input theory, interaction theory, output hypothesis
第10回	グループワーク①	chants, songs, games
第11回	グループワーク②	chants, songs
第12回	グループワーク③	chants, games
第13回	グループワーク④	picture books
第14回	グループワーク⑤	picture books, games
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## (3) 「小学校英語指導法Ⅰ」

### 資料③ 2014年度 小学校英語指導法Ⅰシラバス

#### 【授業のねらいと到達目標（150字以内）】

小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。レッスンプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。

#### 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とゼミ形式で実施する。

## 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

## 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。

## 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach
第4回	外国語教授法および外国語学習②	Content-based, Task-based, MI, immersion
第5回	教材研究①	教材開発の仕方
第6回	教材研究②	ICTの活用
第7回	評価について	評価方法の実際
第8回	LESSONプラン作成①	プロジェクト作成①
第9回	LESSONプラン作成②	プロジェクト作成②
第10回	発表①	模擬授業①
第11回	発表②	模擬授業②
第12回	発表③	模擬授業③
第13回	発表④	模擬授業④
第14回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

## （４）「小学校英語指導法Ⅱ」

## 資料④ 2014年度 小学校英語指導法Ⅱ シラバス

## 【授業のねらいと到達目標（150文字以内）】

小学校外国語活動についての意義を考え、小学校教師として外国語活動を実践する能力を育成する。LESSONプランの作成、模擬授業形式の発表などの実践を通して、小学校教師として適切な指導技能の習得、教材研究、授業の進め方について理解を深める。学生自身の英語運用能力のさらなる強化にも力を入れる。

## 【授業の進め方（履修条件など）（100文字以内）】

講義とゼミ形式で実施する。

## 【成績評価方法・基準（50文字以内）】

授業への積極的な参加・発表・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

## 【授業の予習・復習（50文字以内）】

復習：授業の内容を整理し、まとめ、理解する。授業で取り上げた内容関連の文献資料を読む。

## 【教科書（50文字以内）】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

第1回	オリエンテーション	授業の進め方、外国語学習（自分の体験から）
第2回	小学校外国語活動について	現状（MEXT指導要領）と課題（評価）
第3回	外国語教授法および外国語学習①	communicative approach
第4回	外国語教授法および外国語学習②	Content-based, Task-based, MI, immersion
第5回	教材研究①	教材開発の仕方
第6回	教材研究②	ICTの活用
第7回	評価について	評価方法の実際
第8回	LESSONプラン作成①	プロジェクト作成①
第9回	LESSONプラン作成②	プロジェクト作成②
第10回	発表①	模擬授業①
第11回	発表②	模擬授業②
第12回	発表③	模擬授業③
第13回	発表④	模擬授業④

第14回	これからの小学校英語教育	今後の課題について、ディスカッション
第15回	まとめ	第1～14回の授業を振り返って

### 3 まとめ

本研究の主な目的は、敬愛大学国際学部こども学科における小学校外国語活動に対応する科目「小学校英語Ⅰ」「小学校英語Ⅱ」「小学校英語指導法Ⅰ」「小学校英語指導法Ⅱ」のカリキュラム開発に向けて、4つの講座をより効果的につなげるための調査実施およびシラバス改編を行うことである。小学校教員として外国語活動を指導するために必要な資質や能力を受講学生のアンケート調査から分析し、その結果に基づいて、カリキュラムの内容を充実させていくことをねらいとする。2014年度は、既存のシラバスの実践を通して、学生が外国語活動を実施していくうえで必要と思われる資質や能力について、学生のアンケート調査からの分析を試みた。教師に求められている資質や能力と教員養成のカリキュラムが合うように作るために、次年度以降も引き続きアンケート調査を実施する。学生の多くは、入学時から特に英語力に対する不安がある。しかし、教員としての立場を意識し、グループワーク、模擬授業や発表を通して、経験を積み重ねていくことが今後の指導力や授業運営に大きな影響を与えることがわかった。授業への取り組みにも変化がみられた。そして、英語で授業を行うための大きな自信につながるようになった。今後は学生が授業でどのように変容し、その変化をシラバス内容に反映し、外国語活動が作れる教員の育成するためのカリキュラムを実現していきたい。本研究が受講学生に及ぼす影響は大きく、また小学校英語教育の現場に与える影響も大きいと言える。学生に期待される影響として、英語力の向上、実践力、応用力の習得のほか、自分を生かし、授業を作成するための考える力を養うことができるようになる点が考えられる。

#### (引用文献)

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』、東洋館出版社。

さとう・けいこ Keiko Sato

しぎょう・ともこ Tomoko Shigyo

かれいら・まつぎき・じゅんこ Junko Matsuzaki Carreira